

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年2月14日

【四半期会計期間】 第74期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

【会社名】 岡本硝子株式会社

【英訳名】 OKAMOTO GLASS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長 岡本 毅

【本店の所在の場所】 千葉県柏市十余二380番地

【電話番号】 04(7137)3111

【事務連絡者氏名】 法務・知財部長 兼IR課長 風間 卓

【最寄りの連絡場所】 千葉県柏市十余二380番地

【電話番号】 04(7137)3111

【事務連絡者氏名】 法務・知財部長 兼IR課長 風間 卓

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第73期 第3四半期 連結累計期間	第74期 第3四半期 連結累計期間	第73期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	4,862,934	4,235,431	6,078,943
経常利益 (千円)	345,205	22,368	271,531
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	237,140	41,018	186,823
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	200,027	16,006	88,907
純資産額 (千円)	2,385,122	2,372,696	2,340,611
総資産額 (千円)	7,580,573	7,798,094	7,572,015
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	10.44	1.77	8.21
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	10.42	-	8.20
自己資本比率 (%)	31.5	30.4	30.9

回次	第73期 第3四半期 連結会計期間	第74期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	6.03	0.36

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、第74期第3四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国では、設備投資が弱まりながらも、個人消費は引き続き堅調であることから景気の拡大を続けており、ヨーロッパ地域では、ユーロ圏、英国いずれも景気は弱含みであり、中国では、消費の伸びが低下するなどにより景気は緩やかに減速しております。日本経済は、輸出に弱さが続くなかで、製造業を中心に、景気は弱さをみせております。

当第3四半期連結累計期間のプロジェクターの需要は、欧米、中国、インドなどでのボリュームゾーンの商品が減少しており、当社グループの反射鏡及びフライアイレンズへの需要は減少しました。

他方、ガラス容器への加飾蒸着の需要は増加しており、この需要増に対応するため、新潟岡本硝子株式会社でのクリーンルーム設置は完了し、2019年6月にガラス容器への加飾蒸着を開始いたしました。

政策保有株式の縮減を進め、これに伴う投資有価証券売却益37百万円を特別利益に計上いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高4,235百万円(前第3四半期連結累計期間比12.9%減)、経常利益22百万円(前第3四半期連結累計期間比93.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益41百万円(前第3四半期連結累計期間比82.7%減)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

光学事業

当第3四半期連結累計期間の売上高は2,285百万円と前年同期と比べ555百万円(19.6%)の減収となり、セグメント利益(営業利益)は359百万円と前年と比べ258百万円(41.9%)の減益となりました。

プロジェクター用反射鏡は、販売数量が前年同期比で14.0%減少し、売上高は12.2%減少いたしました。フライアイレンズは、販売数量が前年同期比で24.5%減少し、売上高は24.9%減少いたしました。

照明事業

当第3四半期連結累計期間の売上高は525百万円と前年同期と比べ93百万円(15.0%)の減収となり、セグメント利益(営業利益)は6百万円と前年と比べ27百万円(81.3%)の減益となりました。ヘッドアップディスプレイ向けレンズの売上高が減少いたしました。

機能性薄膜・ガラス事業

当第3四半期連結累計期間の売上高は894百万円と前年同期と比べ246百万円(38.1%)の増収となり、セグメント利益(営業利益)は102百万円と前年同期と比べ133百万円(前第3四半期連結累計期間のセグメント損失は30百万円)の増益となりました。ガラス容器への加飾蒸着の売上高が増加いたしました。

その他

当第3四半期連結累計期間の売上高は530百万円と前年同期と比べ225百万円(29.9%)の減収となり、セグメント利益(営業利益)は36百万円と前年と比べ83百万円(69.7%)の減益となりました。江戸っ子1号を主力製品とした海洋特機の売上高が減少いたしました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末と比べて226百万円増加し、7,798百万円となりました。

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ244百万円の増加となりました。この主な要因は、現金及び預金が161百万円増加、受取手形及び売掛金が90百万円増加したことなどによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ18百万円の減少となりました。有形固定資産が139百万円減少、投資有価証券が132百万円減少及び投資その他の資産その他が245百万円増加したことなどによるものであります。

この結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べ226百万円の増加となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ85百万円の増加となりました。この主な要因は、短期借入金が396百万円増加し、1年内返済予定の長期借入金が192百万円減少したことなどによるものであります。

固定負債は前連結会計年度末に比べ108百万円の増加となりました。この主な要因は、リース債務が73百万円増加したことなどによるものであります。

この結果、負債合計は193百万円の増加となりました。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ32百万円の増加となりました。この主な要因は、利益剰余金が41百万円増加したことなどによるものであります。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は134百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は契約等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	63,766,960
計	63,766,960

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	23,195,153	23,195,153	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株であります。
計	23,195,153	23,195,153		

(注) 1 提出日現在発行数には、2020年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年12月31日		23,195,153		2,486,025		724,621

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

(2019年12月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 700		株主としての権利内容に制限のない標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 23,190,400	231,904	同上
単元未満株式	普通株式 4,053		同上
発行済株式総数	23,195,153		
総株主の議決権		231,904	

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

(2019年12月31日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 岡本硝子株式会社	千葉県柏市十余二380番地	700		700	0.0
計		700		700	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	724,387	885,819
受取手形及び売掛金	1 1,349,162	1 1,440,157
商品及び製品	366,305	354,552
仕掛品	996,874	1,012,964
原材料及び貯蔵品	81,279	82,622
その他	68,157	54,312
流動資産合計	3,586,167	3,830,427
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,091,920	1,084,877
機械装置及び運搬具(純額)	1,017,208	964,421
土地	703,014	703,014
リース資産(純額)	211,290	285,523
建設仮勘定	413,263	267,798
その他(純額)	97,704	89,442
有形固定資産合計	3,534,401	3,395,079
無形固定資産	115,477	123,855
投資その他の資産		
投資有価証券	212,227	79,785
その他	123,741	368,945
投資その他の資産合計	335,969	448,731
固定資産合計	3,985,847	3,967,667
資産合計	7,572,015	7,798,094
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 376,062	2 296,310
短期借入金	124,000	520,000
1年内返済予定の長期借入金	1,781,668	1,589,480
リース債務	60,656	75,630
未払法人税等	57,381	19,445
賞与引当金	75,438	32,511
未払金	236,593	220,393
その他	2 98,691	2 142,393
流動負債合計	2,810,491	2,896,164
固定負債		
長期借入金	1,788,047	1,832,984
リース債務	243,077	316,231
繰延税金負債	23,195	10,531
退職給付に係る負債	292,843	296,251
資産除去債務	47,767	49,784
その他	25,979	23,451
固定負債合計	2,420,912	2,529,233
負債合計	5,231,404	5,425,398
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,477,986	2,486,025
資本剰余金	716,581	724,621
利益剰余金	850,715	809,697
自己株式	429	429

株主資本合計	2,343,423	2,400,520
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,751	358
為替換算調整勘定	35,546	34,935
退職給付に係る調整累計額	54,819	51,747
繰延ヘッジ損益	11,290	10,653
その他の包括利益累計額合計	2,812	27,824
純資産合計	2,340,611	2,372,696
負債純資産合計	7,572,015	7,798,094

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	4,862,934	4,235,431
売上原価	3,373,012	3,004,700
売上総利益	1,489,921	1,230,731
販売費及び一般管理費		
役員報酬	68,805	65,043
給料及び手当	307,476	319,808
賞与	28,598	26,074
退職給付費用	10,219	13,512
減価償却費	33,449	44,593
賞与引当金繰入額	9,912	10,307
旅費及び交通費	35,080	30,655
支払手数料	77,408	76,336
運賃	65,345	50,496
研究開発費	165,902	134,786
その他	313,349	314,414
販売費及び一般管理費合計	1,115,547	1,086,028
営業利益	374,374	144,703
営業外収益		
受取利息	168	288
受取配当金	3,740	2,109
為替差益	26,339	-
助成金収入	19,566	19,280
業務受託料	7,675	4,040
その他	3,785	6,049
営業外収益合計	61,274	31,768
営業外費用		
支払利息	40,720	42,210
為替差損	-	6,912
持分法による投資損失	41,217	63,527
支払補償費	-	33,817
その他	8,504	7,636
営業外費用合計	90,443	154,103
経常利益	345,205	22,368
特別利益		
投資有価証券売却益	-	37,589
固定資産売却益	3,785	3,945
特別利益合計	3,785	41,535
特別損失		
固定資産除却損	42,659	1,872
減損損失	9,295	-
特別損失合計	51,954	1,872
税金等調整前四半期純利益	297,036	62,030
法人税、住民税及び事業税	59,802	21,296
法人税等調整額	93	285
法人税等合計	59,895	21,011
四半期純利益	237,140	41,018
親会社株主に帰属する四半期純利益	237,140	41,018

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	237,140	41,018
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25,874	28,109
為替換算調整勘定	2,120	611
退職給付に係る調整額	820	3,071
繰延ヘッジ損益	9,938	636
その他の包括利益合計	37,112	25,012
四半期包括利益	200,027	16,006
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	200,027	16,006

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 手形割引高

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
受取手形割引高	千円	40,000千円

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
支払手形	65,409千円	48,621千円
設備支払手形	636千円	14,379千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	326,721千円	303,914千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	光学事業	照明事業	機能性薄膜・ ガラス事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,840,788	618,824	647,228	4,106,841	756,092	4,862,934
セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	2,840,788	618,824	647,228	4,106,841	756,092	4,862,934
セグメント利益又は損失 ()	618,315	33,598	30,807	621,106	119,530	740,637

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デンタルミラーなどの医療向けガラス製品、洗濯機用ドアガラスなどを含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
 (差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	621,106
「その他」の区分の利益	119,530
全社費用(注)	366,262
四半期連結損益計算書の営業利益	374,374

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	光学事業	照明事業	機能性薄膜・ ガラス事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,285,401	525,813	894,102	3,705,317	530,114	4,235,431
セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	2,285,401	525,813	894,102	3,705,317	530,114	4,235,431
セグメント利益	359,492	6,270	102,479	468,242	36,270	504,512

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デンタルミラーなどの医療向けガラス製品、洗濯機用ドアガラスなどを含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容
 (差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	468,242
「その他」の区分の利益	36,270
全社費用(注)	359,809
四半期連結損益計算書の営業利益	144,703

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた一部事業について、事業展開に即した見直しを行ったことにより、「機能性薄膜・ガラス事業」を新たに報告セグメントとしております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分により作成したものを記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	10円 44銭	1円 77銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	237,140	41,018
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	237,140	41,018
普通株式の期中平均株式数(千株)	22,714	23,160
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	10円 42銭	-
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(千株)	35	-
(うち新株予約権)(千株)	(35)	(-)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、当第3四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月14日

岡本硝子株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	加	藤	敦	貞
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	吉	川	高	史

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている岡本硝子株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、岡本硝子株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。